

## 初期臨床研修修了式

令和5年度臨床教育・研究センター長 荒幡 昌久



令和6年3月25日(月)に初期臨床研修修了式が執り行われました。令和5年度は、3名の医師が無事に研修を修了できました。これは住民の皆様方の多大なるご理解とご協力により達成できたものであり、この場を借りて深謝申し上げます。初期臨床研修は医師になって最初の2年間に義務化されているものであり、この研修を修了しないと自身単独での診療が許可されません。いわば、この3名は「医師見習い」から立派に「医師」になったのです。4月からはそれぞれが別々の病院で専門医資格取得のための研修に入りますが、南砺市民病院で培った技能が、これから多くの人々を救う力の源になること強く願っています。



坂東 裕

職員のみなさまからは2年間かけて医学的・医療的なことだけでなく、地域の方々の健康への熱意や思いやりを学ばせていただきました。それらの学びを今後の礎として精進してまいります。短い間でしたが大変お世話になりました。ありがとうございました。



小川 風吹

当院の研修では、非常に多くのことを経験させていただきました。指導いただいた病院スタッフ、患者さまに心から感謝申し上げます。



平辻 寛

様々な患者さんとの出会いがあり患者さんに成長させて頂いた2年間だったと思います。ありがとうございました。

## 令和6年能登半島地震による被災地支援活動に参加して

看護師 栄前田 美穂子

富山県医師会JMAT第2隊の一員として、令和6年1月16日から19日まで穴水総合病院を拠点として支援活動を行いました。

JMATは、医師1名・薬剤師1名・看護師2名・事務調整員1名で構成され、被災者の災害関連死予防を使命として活動、災害の超急性期に緊急医療を提供するDMATとも連携し活動もします。穴水総合病院のJMAT本部から指令された避難所を訪問、



右から2番目が栄前田看護師

避難者に声掛けを行い血圧測定や体調確認を行い、必要に応じて医師の診察や薬の処方にて重症化の予防に努めました。また、避難所の生活環境を確認し、感染症発生予防、排せつ環境の調整や転倒予防のための段差の解消対策等、二次健康被害予防活動を行いました。そして、安静による血栓症発生予防の体操指導や低体温予防の生活指導を行い、住民の皆さんが熱心にメモを取られる姿が印象的でした。

穴水地域は、水道、通信、道路等のインフラがまだ未整備であり、住宅の倒壊や山の崖崩れも目立ち、避難所生活を余儀なくされていました。震災発生から約2週間経過しましたが、入浴はおろか着替えさえ出来ていない状況です。そのなかで、住民の皆さんは気丈に振舞い、昼間は倒壊した自宅の片づけに精を出しておられました。時々、先の見えない不安を口にされる方もおられ、心のケアの難しさを痛感しました。未整備な環境のなか、看護師として更に支援出来ることは何かと常に考えながら行動し、皆さんの「ありがとう」の言葉により励まされることもありました。

今回、他病院の方々とのチーム編成でしたが、よいメンバーに恵まれ現地で連携し活動することが出来ました。今後も災害看護について学習を深め精進していきたいと思います。そして、被災地の一日も早い復興をお祈り致します。

\*JMAT：日本医師会災害医療チーム 役割：被災者の生命及び健康を守り、被災地の公衆衛生を回復し、地域医療の再生を支援する



## ロコモを予防しよう！

理学療法士 吉岡 慎司

この記事をご覧の皆様におかれましては、コロナ感染症の混乱と対応から徐々に日常生活を取り戻されていることと思います。当院においても、感染症対策を講じながらこれまでのような市民向けの健康教室を再開できるようになってきました。

今回は2023年12月に行われたロコモ教室の紹介をします。ロコモティブシンドローム（ロコモ）とは、体の運動機能（筋肉や関節）の痛みや衰えにより、日常生活に支障が出てしまう病気のことです。コロナ禍で外出や体を動かす機会が減り、今まさにロコモに注目し改善・予防をするタイミングです。



教室には約20名の参加があり、自身の運動機能チェックをしてロコモ度を測定しました。当院の研究では40歳代からすでに10%、50歳代で30%、60歳代では半分以上の方がロコモではないかという結果が出ています。アフターコロナでロコモの予防運動をしていく中で久しぶりに人が集まり、わいわい楽しく教室が開催でき、病院もこれまでのような市民の方向けの啓発活動ができ大変良い時間となりました。

今後の教室についても多くの方に興味を持って頂けるように準備を進めていきますので、ご参加をお待ちしております。

尚、教室で使用した運動・お薬・栄養の資料を二次元バーコードとして載せておきますので、興味のある方は気軽にご覧ください。データの転用はご遠慮願います。



## 世界腎臓デーを開催しました。

透析センター 看護師 浅井 聡子

世界腎臓デーは、慢性腎臓病とそれに関連する心血管病（心筋梗塞、脳卒中など）の発症や死亡のリスクなどを社会に広く広報すること、慢性腎臓病の早期発見と予防の取り組みを世界的な緊急課題として、社会の関心を高めることを目的に、毎年3月の第2木曜日に世界各地でイベントが開催されています。

当院でも令和6年3月14日に18回目となる世界腎臓デーを開催しました。慢性腎臓病は、初期には自覚症状がほとんどみられません。その為に腎臓病の早期発見と重症化予防が大切になってきます。今回の腎臓デーでは、今年のテーマ【大切な腎臓のこと 気にかけてみませんか？】にちなんで、『慢性腎臓病の早期発見と予防』『慢性腎臓病患者の日常生活での注意点（重症化しないための治療と自己管理）』についてのパネル展示を行いました。それ以外にも、腎臓病に関するパンフレットを掲出しました。また、今回は慢性腎臓病の最新情報についてDVD放映も行いました。



ポスターを読まれている姿や、パンフレットを手に取り持ち帰られる姿などみられ、腎臓病への関心を深めることに繋がったと感じました。

# ニューフェイス

今年度より新たに南砺市民病院に勤務する職員です。皆さまよろしくお祈りします！



## 医師 外科



平野 勝康

南砺市の皆さまの健康に寄与できるよう診療を行って参ります。

## 医師 外科



藤井 みのり

抱負は、1年で消化器外科のcommonな疾患に対する手術、マネジメントができるようになることです。

## 医師 総合診療科



鶴若 莉央

継続は力なり



## 看護師 2病棟



中嶋 歩

地域医療の良さを活かし、看護師としてお役に立てるよう頑張ります。よろしくお祈りします。

## 看護師 3病棟



稲塚 麻衣

知識も技術も未熟ですが、自ら学び、考え、成長していけるように諦めない姿勢で頑張ります。

## 看護師 3病棟



山下 知恵

「雲外蒼天」どんな試練でも努力して乗り越えれば、青空が望めるという意味の四字熟語が好きです。

## 看護師 4病棟



佐々木 花奈

安全な看護を提供できるよう正確な知識や技術を身に付け、信頼される看護師になれるよう頑張ります。

## 看護師 4病棟



松川 七海

「一生懸命」日々努力し、知識、技術を身に付け、患者さん、ご家族本意の看護が出来るよう頑張りたいです。

## 言語聴覚士 地域リハビリテーション科



平井 賀代子

縁あって、新人職員になって戻ってきました。いつも周りの皆さまに助けられています。足を引っ張らないよう、精進したいと思います。

## 理学療法士 地域リハビリテーション科



高田 拓弥

「一期一会」明るく元気に仕事に取り組みます。

## 理学療法士 地域リハビリテーション科



永井 桐生

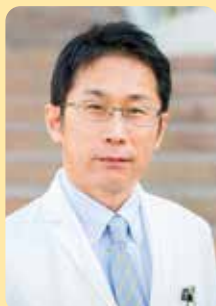
たくさんの方とコミュニケーションを取り、早く環境に慣れ力になれるよう頑張ります。

## 作業療法士 地域リハビリテーション科



西川 朝基

「好きこそ物の上手なれ」「十人十色」挨拶と礼儀と思いやりを大切に一生懸命頑張ります。



## 呼吸器外科専門外来の開始のお知らせ

令和6年4月より外科に呼吸器外科専門外来が始まりました。

第3週の月曜日 午後 つちや 土谷 ともし 智史 医師

(富山大学附属病院 呼吸器外科特命教授)

呼吸器外科は、肺がんを主とした胸部悪性腫瘍の外科治療を行う診療です。  
※第3週の月曜日が祝日の場合は、第2週の月曜日に診察を行います。



Nanto Municipal Hospital  
南砺市民病院

〒932-0211 富山県南砺市井波938番地  
TEL:0763-82-1475 FAX:0763-82-1853  
<https://shiminhp.city.nanto.toyama.jp/>

理念

皆さまの意向を尊重した質の高い医療の提供により地域社会に貢献します